

Human tail の 1 例

藤 山 忠 昭, 熊 坂 中

Human tail (caudal appendage) は胎生初期に於ける胎尾の退化過程の障害によって生じる稀な体表奇形である。今回、我々は本症の 1 例を経験したので、若干の考察を加えて報告する。

症 例

患者：4 カ月，男児。

初診：平成元年 6 月 13 日。

主訴：尾骨部にみられる皮膚突起物。

現病歴：平成元年 2 月 6 日に妊娠 43 週，吸引分娩，3,150 g で出生した。生下時に尾骨左側部に皮膚突起物があるのに気づいた。

現症：尾骨の左側上方部に虫垂様皮膚突起を認める。突起は直径 4 mm，長さ 10 mm 大で正常皮膚で被われ，軟らかい。その基部や周囲に腫瘤や硬結は触れないが，突起物の右上方位で仙椎正中線上に皮膚の小陥凹を認める。その他の部位には奇形等は認めず，身体の発育は正常である(図 1)。

X 線所見：第 1 仙椎に潜在性二分脊椎を認める(図 2)。

手術所見：全身麻酔下に皮膚突起の基部で紡錘状に皮切をいれて切除を進めたところ，基部中心より深部に延びる索状物が認められた。これを追求して行くと仙椎正中の皮膚陥凹部に附着しているのが確認されたので，この部で皮膚突起と索状物を一緒に摘出した(図 3, 4)。

組織学的所見：正常表皮に被われた円柱状突起物で，中央部には厚い線維性組織で分割された脂肪組織が認められた。尚，筋組織や軟骨，骨組織はみられなかった(図 5)。

術後経過：術後 2 年を経過したが，身体の発育は正常で，局所にも再発や異常所見は認められない。

考 察

仙尾骨部に発生する脊髄膜瘤，神経膠腫や奇形腫等の奇形はよく知られているが，Human tail に関する記載は少なく稀なものである。海外に於ては，古くは 1850 年から 1900 年にかけて，Darwine の進化論論争がまき起った時代には何百例

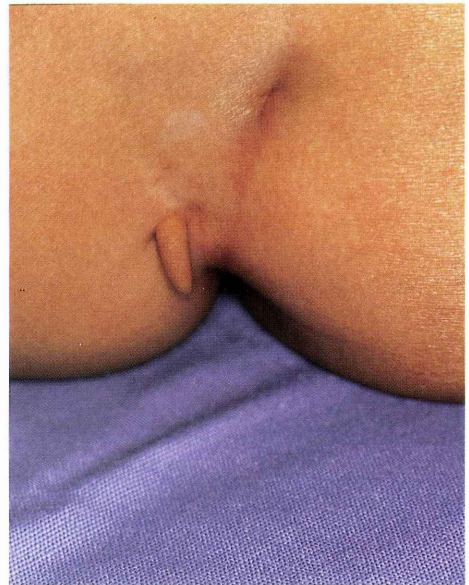


図 1. 局所所見



図 2. レ線所見，潜在性二分脊椎を認める

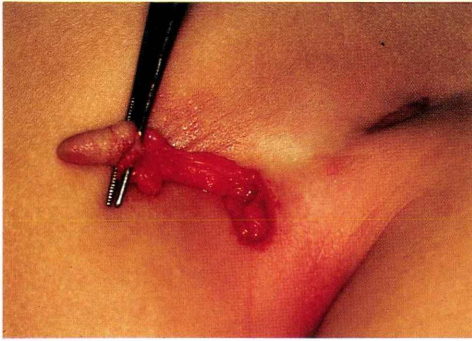


図3. 術中所見, 索状物を認める



図5. 組織所見

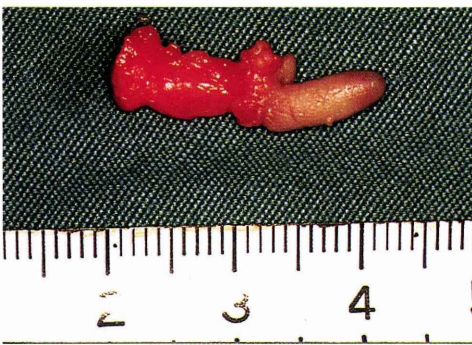


図4. 摘出標本

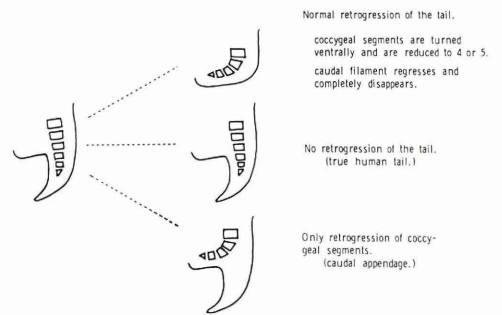


図6. 尾の退化とhuman tailの発生(河村 進: Human tailの2症例.形成外科, 28:437, 1985より引用)

もの報告¹⁾があったという。1884年, Bartels²⁾は126例を集大成し報告したが, これ等の集計は髄膜瘤や他の仙尾奇形³⁾をも含むものであった。近年に於ては1983年, DaoとNetsky³⁾が1859年から1982年迄の報告例を検討した結果, 32症例の確実なHuman tailを認めている。本邦に於ては1940年, 松繁ら⁴⁾の学会発表を第1例とし, 1976年伊藤ら⁵⁾の報告が最初である。その後1988年, 菅又ら⁶⁾によれば本邦に於ける集計は14例と報告され, 稀な体表奇形といえる。

胎生期に於ける胎尾の発育過程⁷⁾は胎生第5週が尾の最も発達した時期であり, この時期には尾の中枢部には半分の長さまで椎骨が存在し, さらに動静脈, 神経, 筋肉も入り込んでいる。第6週を過ぎる頃より次第に退化が進行して椎骨を含まない部は次第に消失し, 椎骨を含む部も前方へ彎曲を強めながら骨数を減少させ尾骨突起として残存するようになる。Human tailの発生病因は胎

尾の退化進行が途中で停止したものと考えられ, Harrison⁷⁾の仮説によれば, 尾骨を含むHuman tailは尾全体の退化が停止したものであり, 尾骨を含まないHuman tailは椎骨を含まない先端部分のみ退化が停止したものとしている(図6)。我々の症例は虫垂様皮膚突起で骨を含むものではなかった。又, 尾の形態については虫垂様や切り株状等色々な形状がみられ, 大きさも大小様々である。Bartels²⁾はHuman tailを表の如く5型に分類している(表1)。我々の症例はこの分類にあてはめるとtype 3に属する例と思われた。

我々の症例はすでに術後2年を経過したが, 身体の発育は順調で, 局所的にも再発や異常所見は認められない。本症には高頻度に合併奇形⁸⁾を伴うことが知られており, 本症例にもみられた二分脊椎をはじめ髄膜瘤, 尾周囲の血管腫, 脂肪腫, 奇形腫等があげられる。さらに稀にはあるが

表 1. Bartels の分類

Type 1.	of real animal tail type, containing additional vertebrae.
Type 2.	stumpy-conical shaped resembling the embryonic tail. They are boneless, but sometimes contain ossified substrate.
Type 3.	contains soft tissue only, with a distally directed apex, the base completely fused with the coccygeal region.
Type 4.	long, thin, boneless, sometimes twisted, like a pig's tail.
Type 5.	conical shape, like Type 2, but containing vertebrae.

(Bartels, M.: Die geschwanzten Menschen. Arch. Anthropol. Brunshweig., 15:45, 1884 より引用)

Tethered cord syndrome の報告^{9,10}がある。Human tail が脊椎管につらなる事は非常に稀で、腰仙筋膜をこえることはない¹¹とされるが、Tethered cord syndrome のように、索状物や脂肪組織が脊椎管内にはいり込み脊髄を圧迫したり、けん引して重篤な神経脱落症状をひき起こすことがあるので、かかる症例に遭遇した場合には、この点も念頭に置いて慎重に対処することが大切である。

本症例は日本形成外科学会第 53 回東北分科会(平成 3 年 11 月, 弘前市)にて報告した。

文 献

- 1) Ledley FD: Evolution and the human tail. A case report. New Engl. J. Med. **306**, 1212-1215, 1982.
- 2) Bartels M: Die geschwanzten Menschen. Arch Anthropol Brunshweig **15**, 45-132, 1884 (文献 8) より引用)
- 3) Dao AH, Netsky MG: Human tail and Pseudotails. Hum. Pathol. **15**, 449-453, 1984.
- 4) 松繁 薫, 早川正己: 人尾の 1 例. 日本外科宝函, **18**, 250, 1940.
- 5) 伊藤寿男, 小池 真 他: Caudal appendage (human tail) の 2 症例. 形成外科 **19**, 176-181, 1976.
- 6) 菅又 章, 佐藤 実 他: 真の human tail の 2 症例. 形成外科 **31**, 1072-1077, 1988.
- 7) Harrison RG: On the occurrence of tails in man, with a description of the case reported by Dr. Watosn. Johns Hopkins Hospital Bulletin **12**, 96-101, 1901.
- 8) 河村 進, 柏 尚裕 他: Human tail の 2 症例. 形成外科 **28**, 437-443, 1985.
- 9) Ohhara Y: Human tail and other abnormalities of the lumbosacrococcygeal region relating to tethered cord syndrome. Ann. Plast. Surg. **4**, 507-510, 1980.
- 10) 加畑寿明, 福田清一 他: Tethered cord syndrome を呈した caudal appendage (human tail) の超未熟児例. 小児の脳神経 **11**, 343-347, 1986.
- 11) Spiegelmann R, Schinder E, Mintz M, Blakstein A: The human tail: a benign stigma. J. Neurosurg. **63**, 461-462, 1985.